



## みぬまニュース

見沼の自然ふれあいウォーク  
『野鳥と野の花を見て歩く』 2月7日(日)

赤城おろしの冷たい空っ風が吹く昼過ぎ、自治医大の南側にある合併記念見沼公園に22名が集まりました。芝川右岸から大宮南部浄化センターまで行き、芝川左岸に回って集合地に戻りました。

色々な野鳥が見られました

風が吹くと野鳥はあまり姿を見せないものですが16種も出現しました。

冬鳥：カモ科のオナガカモ・キンクロハジロ・コガモ・ヒドリガモ・マガモ・ヨシガモとツグミ

留鳥：カモ科のカルガモとカイツブリ、カワラヒワ、スズメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ムクドリ、ハシブトガラス

漂鳥：メジロ

冬でも見られる野の花

晩秋から初冬にかけて小春日和に恵まれたため、真冬でも13種の野の花を楽しむことができました。

在来種：コハコベ、スズメノカタビラ、ナズナ、タネツケバナ、ノゲシ、ハハコグサ、ホトケノザ  
帰化植物：オオイヌノフグリ・オニノゲシ、ハキダメギク、セイヨウタンポポ、オランダミミナグサ、セイヨウカラシナ (小野)

第74回 見沼塾

『和紙を漉く・つくる』 2月28日(日)・3月14日(日)

紙漉き当日は雨天となり、古民家やその庭先を使っでの体験がかなわず、講座室と管理棟ロビーで行いました。

用意した楮の繊維を木槌でたたき細かくし、トロロアオイのぬめりと良くかき混ぜて一人3枚の和紙を漉きました。



紙漉

初めて和紙を漉く方ばかりで、一枚の紙を作る作業量・工程の多さを知り、「紙をもっと大事に使わなくては・・・」との感想が多く聞かれました。

2日目は、和紙の風合いを活かした作品を、暮らし

の中で使うという主旨で、乾燥させた和紙に文字や絵を入れ、主にランチョンマットと下敷きを製作しました。日々の食事で、自作の和紙作品を見ながら食事をする素晴らしさを感じて下さるとありがたいと思います。(浦和くらしの博物館民家園)

市民団体のイベント情報

自然観察会『斜面林の希少種キンラン・ギンランと見沼たんぼの春の七草』

日時：4月29日(木・祝) 9時～12時30分

集合：東武野田線大宮公園駅前

解散：大宮公園

内容：特別緑地保全地区『大和田緑地公園』斜面林に自生する絶滅危惧種のキンラン・ギンラン・シュンランなど見沼1丁目の田んぼに自生する春の七草など湿地や草原の野の花を見て歩きます。

申込み：集合地で8時30分から受付

参加費：500円(中学生以下は無料)

問合せ：NPO法人自然観察さいたまフレンド

TEL：(048) 683-1764・小野

見沼たんぼの四季 『桜並木』

春になると東西の用水沿いに彼方まで続く桜。ちなみに、東縁加田屋近辺の桜は、元々坂東桜として親しまれていたそうですが、戦後の物資不足の時代に薪にするため全部伐られてしまったのを残念に思った地元の方々によって、地域の人達の寄付により復活させたものだそうです。

見沼の桜の美しさは、まわりの木々や風景のなかでこそ生まれるものでもあります。桜を愛でながら見沼を鳥瞰してみるのも一興がもたせません。(高橋)



見沼代用水の桜並木

# 見沼たんぼ探訪記

見沼たんぼには、四季折々の美しさを感じられる自然や、文化や歴史により育まれた風景など、魅力的なたくさん見所があります。ここでは、そんな見沼たんぼの見所を紹介します。

## 大宮第2公園の梅花

これまで寒い日が続いていたためか、梅の開花が遅かったようにも思われますが、2月下旬、暖かさが増すと大宮第2公園の梅林は綺麗な花で包まれました。この公園は昭和57年から昭和59年に掛けて造成された公園です。大宮公園内の県営球場を東側に回り、産業道路を渡ってさらに東方に進んだ所にあります。

ウィークデーではありませんでしたが、梅花を楽しむ人たちの車ででしょうか、大きな駐車場も7割程度は埋まっておりました。公園西門に入って梅林入口から時計台の方を見ますと、およそ100m並んだ満開の紅梅の並木に

眼を奪われ、その見事な咲き振りに感動してしまいました。梅園内に舗装道路を通じて入りますと、梅園の様子を絵に描き残そうとスケッチに



梅林

興ずる人、花に近づき歩を止め静かに香りを楽しむ人、写真撮影にと夢中になってファインダーを覗き込む人等々、色々な人たちが賑わっており、こうした人たちの動きを見ているだけでも心がウキウキしてしまいます。

白梅あり、紅梅あり、或いは枝垂れ梅ありと、それぞれ沢山の梅の花が楽しめます。5000㎡の広さがあると聞くこの梅林には45種の梅木があり、約520本(白梅150、紅梅350、枝垂れ20)もの梅の木が植えられているそうです。

梅林のさらに奥に進みますと、シートを敷き広げその上で休憩している人、お弁当を食べている人、花の咲き具合を觀賞している人・・・思い思いの動きがあつてとても賑やかです。こちらの方ではメモ帳を取り出し何やら手を走らせておられます、名歌でも詠じているのでしょうか。あちらの方では花の下を、お孫さんの手を引いてのんびりと散策している年輩の女性が見られます。

あちこちの花を楽しんでいると、不思議にも紅色と白色の花が1本の樹から咲いていました。このような梅の樹を見るのは私には初めての体験で、このようなこともあるものと、驚いてしまいました。

今年の梅まつりは2月13日から3月1日迄ですが、この期間に「オカリナ演奏会」や「骨董市」等、沢山の催し物があつて観梅客を楽しませてくれるといい、一層の盛り上がりを感じました。(召田紀雄)

## 第1回 見沼たんぼクリーン大作戦

3月14日(日)「見沼たんぼ・さいたま市 & 市民ネットワーク」主催の見沼たんぼクリーン大作戦が開催されました。

このイベントは、さいたま市みどり推進課が事務局になっている「見沼たんぼ・さいたま市 & 市民ネットワーク」に参加している各団体が、見沼たんぼの11箇所でごみ拾いを実施するとともに、市民、自治会、企業からの一般参加者がメイン会場である合併記念見沼公園周辺のゴミ拾いを実施するという、今年が第1回目となる試みでした。



開会式の様子

私は一般参加者として、合併記念見沼公園周辺のゴミ拾いに参加しました。午前9時30分からの開会式のあと、一般応募者64人、自治会や企業14団体からの参加者が3グループに分かれて、見沼たんぼクリーン大作戦がスタートしました。

私のグループは見沼代用水西縁沿いを中心にゴミ拾

いました。大勢で列になって歩いていたので、初めはこのままだと出番がないかなと思いましたが、畑や



見沼代用水沿いのゴミ拾い

空き地が多い辺りまで行くと、みんなで拾ってもきりがないほどゴミが見つかりました。

ゴミは空き缶やタバコなど、ポイ捨てされたものが多かったようですが、中にはエアコンやスクーターなど、わざわざ見沼たんぼに捨てに来たとしか考えられないものもありました。

このイベントで見沼たんぼのゴミをなくすことは難しいかもしれませんが、多くの人々が身近な環境について考える機会ができたことは素晴らしいと思います。緑区の「見沼たんぼキレイきれい大作戦」と一緒に見沼の恒例イベントとして定着してほしいですね。(林)

## 見沼たんぼの植物

### － 春の七草 －

冬の田圃の遠景は、秋に耕され細かく砕かれ平たくされ、また未秋耕の処は稲刈りの後に生えた糞（ひつじ）が枯れて列をなすなど寒々としたものである。しかし、近付いて観察すると、秋に芽をだし越年中の2年生・多年生の植物がみどりの葉を地面にへばりつかせ健気に生えており、その多くが根生葉を持つロゼット植物である。これらは冬の寒風を避け、弱い日光の中で葉を存分に拡げ太陽エネルギーを受け、それを春に備えて根に栄養を蓄える植物群である。この中には春の七草（種）とされ食材となる若菜が含まれる。現在の太陽暦1月7日に七草粥を食べ健康を祈念する年中行事となっているが、明治維新前に使用していた太陰太陽暦（旧暦）に置き換えてみると、今年は2月20日になる。春の七草とは、セリ（芹）・ナズナ（薺）・ゴギョウ（御形）・ハコベラ（繁縷）・ホトケノザ（仏の座）・スズナ（菘）・スズシロ（清白）と言われてきたが、現在その名前や種が異なるものがある。ゴギョウは「ハハコグサ（母子草）」の異称であり、ハコベラは「ハコベ」の古名である。ホトケノザは現在シソ科の紫色の花を付ける種を指し、七草ではキク科の「コオニタビラコ（小鬼田平子）」を指すが、幼草の時、葉をロゼッ

ト状に地表に拡げた形が仏像の蓮華座に似ていることに由来しよう。また、スズナは「カブ（蕪）」、スズシロは「ダイコン（大根）」を指し、古くに中国から渡来した栽培種である。この時期、見沼たんぼでこの全てを探すことは難しい。この年中行事は、中国の六朝時代の書「荊楚歳時記」にあり、それが日本の朝廷の儀式に取り入れられて、やがて一般庶民の年中行事にも取り入れられたものである。春の七草は、古くは羹（あつもの）であったが、後世、粥に入れるようになる。参考までに、今年2月22日の田圃の植物観察では、30種を超える種を見付けている。その中で、春の七草は、ナズナ・ハコベ・ハハコグサ（近くの畑にダイコン）がある。ナズナ・ハコベには既に花を付けた個体もある。その他の種で開花していたのはオオイヌノフグリ・セイヨウタンポポ・ホトケノザなど8種ほどであった。

春の七草は、食材であると共に薬草（種によって薬効は異なるが健胃・腹痛・冷え症・風邪など）としても知られている。これらの採取・活用にはあくまでも正確な知識が前提であり、また症状や体質にも関係するので、類似の別の種を誤って採取するなどして思わぬ事故に遭わないとも限らないので、事前に専門書を読むとか、専門家の指導を受けることが肝要である。（NPO法人自然観察さいたまフレンド 若野忠男）

## 見沼たんぼの動物

### － 見沼たんぼの害虫 －

春になると、アブラムシ、カイガラムシ、ヨトウムシ等の卵がかえり、若芽、若葉、新梢を痛める被害を及ぼす。

まず、アブラムシは、濃黄色が好きで、口針で汁液を吸うので、植物は病気に対する抵抗力が低下し、ウイルス病にかかる。受精卵は春先にかえり、翅のないメスだけが発生し、その後は卵を産まず子供を産む。初夏には、翅のあるメスが生まれ、秋にオスが現れ、交尾後、メスが卵を産み、卵の状態越冬する。予防法は、アブラムシの嫌いな銀色反射光を利用する。株元にアルミ箔をおくと、寄りつかない。

次に、カイガラムシは種類が多い。幼虫のときは、足があるが、成虫になると退化する。カイガラムシに吸汁された植物は、成長が阻害され枝枯れをおこし、排泄物により、スス病を発生する。5月～9月に幼虫が卵から孵化し、冬は、カイガラやロウなどの衣を着た成虫で過ごす。予防は、草木灰などを含んだ肥料で植物に育てることであるが、発生したら

早期に歯ブラシ等で丁寧に取り除くに限る。

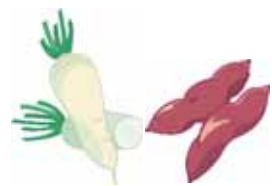
最後に、ヨトウムシは、チョウやガの幼虫で、植物に産み付けられた卵がかえり、葉や花をかじって危害を加える。中でもカブラヤガの幼虫は、ネキリムシとも呼ばれ、夜間に活動して莖や葉を食害する。春と秋に幼虫が発生し、冬はサナギで土中で過ごす。寒冷紗や草木灰で予防が出来る。

それ以外の予防法は、天敵利用である。アブラムシとアリは、共生しているので、アリの通り道を閉ざすのがよい。天敵であるハチ、テントウムシ、カメムシなどが食べてくれる。また、ヨトウムシやアオムシなどの幼虫にとっての天敵は、トンボ、クモ、テントウムシ、小鳥、アマガエルなどである。

生物は繋がっており、また弱肉強食の関係がある。食物連鎖を考えると、以前の多様な生物がいる社会にする努力が必要と考える。それには減農薬や有機農法が必要であり、天敵利用を積極的に利用すべきと思う。（NPO法人自然観察さいたまフレンド 長澤義則）



# 見沼たんぼの農家さんのお話



見沼でいちご狩り！？

いちご農家岡田さんを訪ねて

そうなんです。大崎公園とは目と鼻の先のビニールハウスの中では、大粒の真っ赤ないちごがあま〜い香りを放っていました。

いちご農家の岡田さんを訪ねたときは、ちょうど車椅子の方々がいちご狩りを楽しんでいらっしゃいました。ここでは「高設ベンチ栽培」という栽培方法を用いているため、腰の高さくらいにいちごが実ります。それで、車椅子やベビーカーでも楽しめるのです。



主な品種は甘い「章姫(あきひめ)」と、香り高い「紅ほっぺ」。これは「章姫」です。ほんとに大きい！

まだ30そこそこの岡田徹さんは見沼で代々続く農家で八代目に当たられます。元々、首都圏に近いという立地を生かした観光農業の可能性を探してはいましたが、農業に対する思い入れはあまりなかったといいます。しかし、何気なく入った農業者大学で全国各地から集まった農業者の人達との出会いが大きな転換点となります。農業者大学が今の自分のすべてのベースだと語っておられました。いちごとの出会いは、ルームメイトが佐賀のいちご農家だったこと。そこでいちご、と決めてからはひたすら見沼でのいちご農園開設を目指して学生生活を送ります。

22歳からいちご栽培農家としてスタート。苗を植えてからまずしたことが、販路の確保でした。農作物はどうやって売るか、という事が実は大きな課題なのです。通常の出荷では生産者は自分の生産物に自分で値をつけられない、という実情が農業に対する

やる気を失わせている一因であるともいわれています。ぶっつけで、価値を認めてくれそうなスーパーと直接交渉。無事契約が成立し、直販とスーパーの二本立てでの出荷となりますが、次第にお客さんからのいちご狩りの要望が高まり、現在のようにハウスでいちご狩りも楽しめるようになったそうです。今では主に都内から、多い日は200人ほどの人が来園するまでになりました。ホームページを見て訪れる人が多いということです。



ビニールハウス脇にある、お土産用の売店。もちろん採りたてです。また、保存できる冷凍いちご(自家製)も置いてあります。

ところが見沼では基本方針に基づく規制があって、農業者の農業施設(ビニールハウスなど)以外の、駐車場やトイレなどの建造は許可されていません。それは見沼の保全という面からではありますが、体験を含めた観光農業の展開を考えると難しい問題でもあります。

「一日中ここにいたい」と思えるような楽しめる観光農園を目指したいと、明るい笑顔で語ってくれた岡田さん。「いちご屋さん」(岡田さんの言葉)としての矜持を持って前向きに語るその姿に、明日への力強さを感じました。(高橋)

美園いちごランド

さいたま市緑区間宮大沼803

TEL: 090-5337-0391

HP: [http://www.geocities.jp/misono\\_ichigo\\_land/](http://www.geocities.jp/misono_ichigo_land/)

# 見沼たんぼ 水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎



## 「騎西領分水口」(新川用水路 別名騎西領用水路の取り入れ口)

この地区の見沼代用水は熊谷から流下する星川の流路を利用しており、川幅が広い。

遠景(下流)の構造物は騎西第一調節堰、左岸にあるのは新川用水路が分流する騎西領分水口。ここには、既に元和年間(1615-1623)に「上崎堰」が設けられ星川から取水を開始、元禄3年(1690)には騎西領主によって現在の久喜市下早見まで整備された。

この用水路は代用水路支流の中で高い重要性を持っており、上流忍領と下流騎西領との間で開墾当初からその配分には深刻な水争いがたえなかったという。

現在新川用水路に沿って「水と緑のふれあいロード」の名の遊歩道が加須を経て久喜にまで設けられている。

## 「菖蒲城址あやめ園」(菖蒲町)

この付近は 古来「小林沼」という菖蒲町西部の新堰と小林の村落に囲まれた西北から東南に細長く延びた沼があった所。見沼代用水沿線の他の沼と同様に、享保13年(1728) 井沢孫惣兵衛為永翁により新田開墾された。

あやめ公園では6・7月に「あやめ・ラベンダー ブルーフェスティバル」が開催され、多くの人々で賑わう。

右の門は、江戸時代に地域一帯を治めていた旗本内藤氏の相間陣屋の裏門と伝えられる。



# 「見沼たんぼ地域ガイド養成講座」の募集が始まりました。

## 受講生の募集は、3月10日～4月25日です。

### 講座開催の趣旨と主催団体

見沼たんぼとその周辺地域は、首都圏の貴重な大規模緑地空間であり、その歴史・文化・農業・自然などの諸資源は、市民にとっても貴重な文化・環境資産となってきました。このような中で、近年、見沼たんぼ地域を訪れる人々の数もふえてきています。

見沼たんぼ地域を訪れる方々に、この地域の文化・環境・産業などの総合的な情報をガイドし、地域の未来に向けた創造活動の力となっていただけるよう「見沼たんぼ地域ガイド養成講座」を5月から開催するものです。

養成講座の主催団体は、見沼たんぼくらぶをはじめ8つの市民団体で「見沼たんぼ地域ガイド養成講座実行委員会」を結成し、さいたま観光コンベンションビューローとさいたま商工会議所の後援及び(財)サイサン環境保全基金からの助成を受けて実施するものです。

- 1 受講の条件 毎月1回、第3火曜日の午後の講座(13:30~16:30)もしくは、現地視察会(9:30~16:30)に参加し、将来、見沼たんぼ地域でガイドとして活動していただける方
- 2 受講申込み 下記の ~ の内容を適宜で記入し、お申し込みください。  
 申込み者の氏名・性別と年齢、 連絡先住所、 連絡方法として電話とFAX番号及びメールアドレス、  
 受講を希望された動機、 将来、見沼たんぼ地域のガイドとして活動することについて、ご自身で考えておられること
- 3 申込先 見沼たんぼ地域ガイド養成講座 実行委員会  
 FAX 048-834-5731 までお申し込みください。  
 メール minuma.farm.kitasaku@ever.ocn.ne.jp  
 実行委員会でお申し込み内容を審査の上、多数の場合は抽選で決定し、結果を、4月下旬に御連絡します。
- 4 受講費 年間4千円(見沼たんぼくらぶの会員は3千円)
- 5 講座の会場 大宮駅西口のジャック大宮ビル3階の会議室
- 6 募集人員 35名程度

### 2010年度の見沼地域ガイド養成講座・現地視察会 年間計画

月 日	講 座 の 概 要
5月18日	1. 講座 見沼たんぼ地域の現状と展望 2. 講座 映像で語る見沼たんぼの四季
6月15日	3. 現地視察会 田植えの終わった見沼・加田屋新田地域 4. 現地講座 見沼・東部地域の自然環境と歴史・文化
7月20日	5. 講座 見沼たんぼの歴史 その1(干拓史を中心に) 6. 講座 見沼たんぼの歴史 その2(前後の歴史概観)
8月17日	7. 講座 見沼たんぼを巡る政策展開史 8. 講座 見沼たんぼの地形・地質条件と治水政策
9月21日	9. 現地視察会 黄金色に染まる秋の見沼・北部地域 10. 現地講座 見沼・北部地域の自然環境と歴史・文化
10月19日	11. 現地視察会 稲刈りの進む大崎地区から通船堀へ 12. 現地講座 見沼・南部地域の自然環境と歴史・文化
11月16日	13. 現地視察会 晩秋の新都心東エリアから中氷川神社 14. 現地講座 見沼新都心東地域の自然環境と歴史・文化
12月21日	15. 講座 見沼たんぼ地域の歴史的文化財 16. 講座 見沼たんぼ地域の文化・公園施設と自転車コース
1月18日	17. 講座 見沼の伝説と民話 18. 講座 見沼たんぼ地域での市民活動や農園活動等
2月15日	19. 講座 見沼たんぼ地域の農業の現状と課題 20. 講座 見沼たんぼ地域での観光農業の展開
3月15日	21. 講座 見沼たんぼ地域の食べ物や直売店等のお店紹介 22. 講座 ガイドとしての基本的技術と心構え
4月 5日	23. 現地視察会 桜の見沼代用水東縁から氷川女体社へ 24. 現地講座 見沼中央地域の自然環境と歴史・文化

## 浦和博物館

住所：さいたま市緑区三室 2458 電話：048-874-3960  
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### 1 展示活動

#### ① 常設展

期間：平成22年4月15日(木)～平成22年7月中旬  
内容：博物館所蔵品を中心に、主に見沼通船堀・鳳翔閣関係その他歴史資料を展示。

### 2 親子探鳥会

日時：6月12日(土曜日)9時～12時  
内容：親子で見沼たんぼの野鳥を観察。カルガモの親子が見られるかも？雨天時は館内で鳥のお話など。  
対象：小学生とその保護者 定員：20組(先着順)  
講師：日本野鳥の会埼玉県支部会員  
参加費：無料  
申し込み：6月号「市報さいたま」に掲載

### 3 三室地区定例探鳥会

日時：4月18日、5月16日、6月20日(毎月第3日曜日)9時00分～12時00分(雨天中止)  
集合：9時に浦和博物館 場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ  
主催：日本野鳥の会埼玉支部  
参加費：高校生以上100円、小・中学生50円(未就学児は無料)

## 浦和くらしの博物館民家園

住所：さいたま市緑区下山口新田 1179-1 電話：048-878-5025  
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

#### ① 探鳥会

日時：4月4日(日)9時～12時(雨天中止)  
対象：どなたでも(小学生以下は保護者同伴)  
費用：中学生以下50円、高校生以上100円  
申し込み：当日、直接民家園へ

#### ② 春の自然観察会

日時：5月2日(日)9時30分～12時30分  
内容：里山と春の小川を観察しよう  
対象：中学生以上 定員：30人(先着順)  
費用：無料 申し込み：4月4日(日)9時から電話で

#### ③ 子どもの日講座「竹や木で作るおもちゃ作り」

日時：5月5日(水)9時30分～12時00分  
内容：竹や木を使って竹鉄砲などを作ります  
対象：小学生以上(親子可) 定員：20人  
費用：無料 申し込み：4月4日(日)9時から電話で

#### ④ 母の日講座「紙バンドで作る手提げ籠作り」

日時：5月9日(日)10時00分～15時00分  
内容：長さ30cm・幅11cm・高さ20cmの手提げ籠を作ります  
対象：高校生以上 定員：15人  
費用：1,000円 申し込み：4月4日(日)9時から電話で

## 旧坂東家住宅見沼くらしっく館

住所：さいたま市見沼区片柳 1266-2 電話：048-688-3330  
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### 1 主催事業

#### ① 趣味・教養講座(定員あり/無料)

イベント	月日	時間	定員
茶染め体験教室	4月14日(水)	14時～16時	10名
梔子染め体験教室	4月15日(木)	14時～16時	10名
小豆染め体験教室	4月16日(金)	14時～16時	10名
茜染め体験教室	4月21日(水)	14時～16時	10名
柿渋染め体験教室	4月22日(木)	14時～16時	10名
蓬染め体験教室	4月23日(金)	14時～16時	10名
文化財探訪「御蔵のクマガイソウ」	4月28日(水)	9時～12時	10名
三味線基礎講座(全4回)	5月8・15・22・29日	の毎土曜日	
	あやめ組	13時～14時30分	5名
	つつじ組	15時～16時30分	5名
見沼を知る講座・初級編(全5回)	5月～8月までの	10時～12時	15名
	毎月第3木曜日		
郷土をあるく「与野の町を訪ねる」	5月25日(火)	9時～12時	20名
折手紙教室	5月26日(水)	14時～16時	10名
渋団扇を作る	5月27日(木)	14時～16時	10名

絵手紙落款を作る	5月28日(金)	14時～16時	10名
加田屋そば作り講座	6月16日(水)	10時～13時	8名
マイ箸を作ろう!	6月22日(火)	14時～16時	10名
越前そば作り講座	6月23日(水)	10時～13時	8名
ランタンを作ろう!	6月23日(水)	14時～16時	10名
はじめての篆刻(20mm角)	6月24日(木)	14時～16時	10名
クラフトタイル工芸	6月25日(金)	14時～16時	10名
風船で作るランプシェード	6月29日(火)	14時～16時	10名
関八州うどん作り講座	6月30日(水)	10時～13時	8名
暑中見舞い用落款作り	6月30日(水)	14時～16時	10名

#### ③ 公開講座(定員なし/無料)

邦楽鑑賞「春の首重ね」	4月18日(日)	14時～16時
新茶試飲会「八十八夜の色・香・味」	5月2日(日)	14時～15時
端午の節供「草餅作り」	5月5日(祝)	14時～15時
見沼亭「春のくらしっく寄席」	5月23日(日)	13時～16時
郷土を知る講座「見沼を東京市の水がために」	6月17日(木)	14時～15時半

### 2 くらしっく館例会「いろいろを囲む」毎月第3水曜日 10:30～11:30

いろいろを囲んでよもやま話をしませんか。気軽に御参加ください。

### 3 企画展示

「茶のかたち」	4月5日(木)～5月23日(日)
「竹の造形」	5月25日(火)～7月4日(日)

※申込み等の詳細については見沼くらしっく館にお問い合わせ下さい。

## 農業者トレーニングセンター(園芸植物園・大崎公園・子供動物園)

住所：さいたま市緑区大崎 3156-1 電話：048-878-2026  
開館時間：10時～16時 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

#### ① 羊の毛刈り

日時：4月18日(日)11時～12時20分  
会場：さいたま市大崎公園内子供動物園  
対象：中学生以下の子供  
内容：原毛を加工し、マスコットや記念カードを作る

#### ② アグリフェスタ'10

日時：5月4日(火)、5日(水)  
会場：緑の広場(農業者トレーニングセンター内)  
内容：農産物の直売、山野草の展示、ステージショーなど

## 大宮公園事務所「大宮第2公園・公園ギャラリー」

住所：さいたま市大宮区寿能町 2-405 電話：048-645-9605  
開館時間：8時30分～17時  
休館日：毎月第1・3・5月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### 1 展示会 ※詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

水墨画・書道の展示	4月1日(木)～4月11日(日)
むさし野えびね展示即売	4月16日(金)～4月18日(日)
押し花・レカンフラワー・ビーズ	4月20日(火)～4月25日(日)
春の山野草展示即売	4月23日(金)～4月25日(日)
第5回陶遊会作品展	4月26日(月)～5月2日(日)
趣味の山野草展	5月3日(月)～5月5日(水)
関口弘呂子のうつし絵展・4	5月10日(月)～5月23日(日)
さいたま模様	6月1日(火)～6月6日(日)
むさし野えびね展示即売	6月18日(金)～6月20日(日)
八色会展(水彩画)	6月22日(火)～6月27日(日)

## 見沼たんぼくらのイベント案内

### 平成 22 年度見沼たんぼくらぶ総会

皆さまの出席をお待ちしています！

日 時：4月17日(土) 11時～12時

場 所：市民の森見沼グリーンセンター2F 会議室

議 題：①事業報告 ②収支決算 ③役員改選  
④事業計画 ⑤予算

交 通：JR 宇都宮線土呂駅東口徒歩10分  
駐車場あり

付記1) 受付は10時30分からです。

2) 当日、13時集合の自然観察ハイキングご参加の方は  
昼食をご持参ください。

3) 市民の森には、熱帯植物園やリスの家など見応えの  
ある所があります。

### 第 41 回自然観察ハイキング 『見沼の自然と史跡を訪ねて』

日 時：4月17日(土) 13時～16時

集 合 地：市民の森正門(川島橋向い)

内 容：自然観察指導員のガイドで、公園のサトザクラ  
や見沼たんぼの春の七草などの野の花を楽し  
み、若葉もえる雑木林を散策します。

コ ー ス：市民の森⇒見沼代用水西縁⇒神明社⇒見沼公  
園⇒防風林⇒芝川⇒大宮体育館⇒大和田緑地  
公園⇒見晴公園⇒市民の森

申 込 み：当日、集合地で12時30分から受付

参 加 費：¥500(会員及び中学生以下は無料)

問 合 せ：(048) 683-1764(小野)

### 宮田正治先生へのお礼

本号より新企画のスタートに伴い、これまで会員の皆様にご好評をいただいていた、宮田正治先生による創作民話のコーナーを終了とさせていただきました。

宮田先生には、毎号、見沼たんぼの伝説をモチーフにした楽しいお話を寄稿していただき、本当にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

見沼たんぼくらぶ事務局一同

**「見沼たんぼくらぶ」をお友達に紹介してください！「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしましょう！年会費：個人(ファミリー)・団体・法人とも一口¥1,000です。**

(編集・発行) 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053

さいたま市見沼区大和田町 1-2124-3 小野方

TEL・FAX：(048) 683-1764

URL：<http://minumatanbo.web.fc2.com/>